

平成30年1月

## 普及活動報告

### ～平成29年産を振り返り、来年度に活かす～水稻の栽培指導

(亀岡市：9日)



来年の取組を話し合う

農事組合法人ほづは、約34haの水稻（飼料米含む）が収益の中心であり、経営の安定には目標収量の達成が必要不可欠です。平成29年産の作業日誌を基に振り返り、来年度に活かすための話し合いを行いました。

収量が目標より低かった品種について、今後は幼穂形成期の確認を徹底し、穂肥を適期施用することや、従業員の技術レベルの向上が必要であることなどを話し合いました。普及センターでは水稻の収量・品質向上による経営改善について、継続的に支援します。

場 所 保津町

出席者数 4名

**農事組合法人ほづ：コシヒカリ、日本晴を中心に水稻約34haを栽培。**

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年1月

## 普及活動報告

### 南丹地域農業士会新旧役員会を開催

(全域：11日)



奥村現会長から挨拶



新会長候補から今後の抱負

南丹地域農業士会は、2月14日に開催される総会・研修会に向けて、29年度事業・決算報告、役員改選、30年度事業計画・予算案などを協議するため、新旧役員会を開催しました。研修会は、今後を担う若手の農業者に関心を持ってもらうことを期待し「ICTを活用した農畜産業の最先端技術」をテーマとして行うこととなりました。

新役員候補からは、30年度事業計画について、「もうかる農業を目指さないと、後継者づくりは難しい。関係機関が連携し、若い後継者へのサポート体制が大事」との意見がありました。

普及センターは、地域の中核となる農業士とともに担い手育成や地域活性化に取り組んでいきます。

場 所 園部総合庁舎  
出席者数 11名

南丹地域農業士会 会員、現在39名（指導17名、女性13名、青年9名）

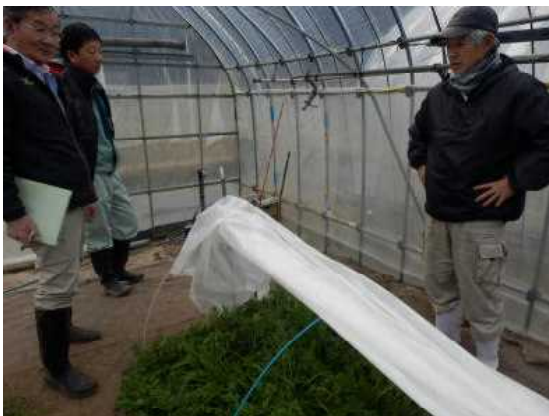
京都府南丹農業改良普及センター

平成30年1月

## 普及活動報告



巡回時に生育状況を調査



関係機関（JA、特産協）も同行

### ～2月までの京かんざしの継続出荷に向けて～ハウスの定期巡回を実施

（南丹市・京丹波町：15・18日）

近年京かんざしは市場での評価も高くなっています。今年度は生産者間で播種時期を調整し、10月下旬まで段まきを行いました。そこで今回は、共販出荷期間である2月末までの安定出荷に向けて、計画的な収穫作業や冬季の栽培に必要なトンネルを使った保温管理の指導を行いました。

今年から栽培を始めた生産者は2戸あり、「先輩農家にも指導いただき良質の京かんざしが生産できた」「トンネルを使って保温したことで2月までの出荷ができそうだ」との声がありました。昨年10月の台風による被害を受けながらも、今後は安定した出荷となる見込みです。普及センターは引き続き関係機関と連携を取りながら、高品質で安定した生産を支援していきます。

場 所 南丹市八木町・日吉町  
京丹波町井脇・妙楽寺

出席者数 14名

平成29年度の栽培農家数は18戸（南丹市5戸、京丹波町13戸：昨年より1戸増）

平成29年度12月末までの出荷量は約2.4t（前年比100%）

（京かんざし研究会：全栽培農家で構成。事務局は南丹地域特産物育成協議会）

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年1月

## 普及活動報告

### ～酒米・良食味米等、水稻の栽培を学ぶ～ 第3回京都丹波集落担い手基礎講座

(全域：17日)



熱心に説明を聞く受講生



パワーポイントを用いて説明

今回の講義では、作付け面積が増えている酒米の栽培、水稻の育苗にかかる労力を省くことができる直播栽培、また、品質の高い米作りとして良食味米生産への取り組み方を説明しました。

受講生からは「心白と乳白の違いは」「補助金はどのようなものがあるか」等質問がありました。また、講座終了後にも個別で質問が出るなど、熱心に受講されていました。

場 所 園部総合庁舎  
出席者数 19名

27年度から開講、南丹管内の主に20～60代の農業者が参加。地域農業を守る土地利用型作物（水稻・豆）の基礎技術の向上を目指している。(全4回)

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年1月

## 普及活動報告



決意表明を行う研修生



関係者揃っての記念撮影

### ～地域農業を担う新しい研修者が誕生～ 南丹市で担い手養成実践農場研修の開始式 を開催

(南丹市：24日)

実践農場推進室長から技術指導者へ委嘱状を交付の後、研修開始にあたり、関係者から研修生へ激励の言葉が贈られました。研修者は地域特産のハウスキュウリ、シュンギク、露地ナスを栽培する予定です。

技術指導者からは「近年は気象変動が激しく困難が予想されるが頑張ってもらいたい」「楽しみながら農業を行ってほしい」、後見人からは「初めて地域外から研修生を受け入れる。担い手として期待する」と大きな期待が寄せられました。研修生は「地域の担い手として活躍できるよう努力したい」と決意表明をされました。今後も普及センターは確実な就農・定着に向けて支援を行っていきます。

場 所 園部総合庁舎  
出席者数 12名

南丹管内の実践農場設置数54ヶ所、うち南丹市22ヶ所、亀岡市20ヶ所、京丹波町12ヶ所（平成30年1月現在）。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年1月

## 普及活動報告



室内にて生育状況の説明



ほ場の状況を確認

### ～ビール大麦の品質向上と契約数量達成を目指して～寒波による降雪の中、 現地研修会を開催

(亀岡市：25日)

10月の台風による大雨や播種適期である11月第3半旬の降雨などにより播種が遅れ、その後の低温傾向で生育が大幅に遅れている状況を普及センターから説明しました。今後の管理として、生育の遅れに応じて追肥の時期を遅らせることや、融雪水の効果的な排水の徹底について呼びかけました。

「低温の影響で肥料の溶出と生育のタイミングが合わないのではないか」「生育の遅れはどの程度まで収量に影響があるか」など、低温の影響を心配する声が聞かれました。今後、普及センターでは定期的に生育調査を実施し、生育状況や病虫害発生状況の把握に努めるとともに、技術情報を通じて各組合に生育状況等を伝えるなど、的確な指導に努めます。

場 所 JA京都亀岡川東支店  
及び現地ほ場

出席者数 26名

平成30年産栽培面積は約93ha（28年産：約94ha）

亀岡農業振興協議会は、亀岡市、農業委員会、JA京都、南丹広域振興局、普及センターで構成。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年1月

## 普及活動報告



農業者を中心に多くの方が参加



小豆機械化栽培について講演

### 「亀岡市における『丹波大納言小豆』機械収穫技術の確立と普及」と題し、島根県で講演 (29日)

出雲市で行われた「平成29年度普及活動・試験研究成果発表会」において、京都府が進めてきた小豆機械化栽培の歩みと課題などについて、基調講演を行いました。

島根県では宍道湖西岸地区で大規模なほ場整備事業が計画され、小豆の産地化を検討しており、平成28年度から小豆機械化栽培の実証活動を始められました。質問では「播種時期と粒の大きさの関係はどうか」、冬期になると天候が安定しない山陰地方の条件から、「収穫を早めるための技術はあるか」など、活発な質問が行われ、関心の高さがうかがえました。

場 所 ビッグハート出雲(島根県)  
出席者数 350名

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年1月

## 普及活動報告

### はたけじよし 「畑女子in京都丹波」交流会 & 意見交換会

(全域：31日)



意見交換

「売り上げの管理はどうしてる?」「ご飯の準備は?」等々、経営や家庭生活に関する様々なことを話し合い、また、それぞれの今年の抱負を紙に書き、一年後に達成度を報告し合うことを約束しました。

「いい息抜きになった」「それは知らなかった!」と有意義で楽しい会合になりました。10月には、会員の黒大豆枝豆の出荷調製施設を見学することを決めました。普及センターでは、定期的集まる機会をつくり、会員の要望に合う支援をしていきます。

場 所 南丹市園部町

出席者数 9名



今年の抱負を書いて発表

現在の会員は20～40歳代の管内の女性農業者11名。

京都府南丹農業改良普及センター